



NEWS LETTER



連続自治体特別企画セミナー 年間計画

第4回 11月28日(木)

第5回 2月20日(木)

◆ 内容・講師などの詳細は、KPIホームページをご覧ください。

後援等について

KPIでは、共催や後援、協賛、協力というかたちで、地方自治体や企業、NPOと連携しながらイベント等を開催しています。

ご希望の方はKPIホームページの「諸手続き」にある、「後援等申請書」にご記入の上、メール又はFAXにてご連絡ください。

京都府立大学
京都政策研究センター
〒606-8522
京都市左京区下鴨半木町1-5

Tel & Fax : 075-703-5319
mail : kpiinfo@kpu.ac.jp

セミナーのご案内やニュースレターなどをメールマガジンで配信しています。ご希望の方は、上記メールアドレスまでご連絡ください。

2013年11月1日発行

これからの地方自治・地方政策を考える

連続自治体特別企画セミナー



第3回セミナー

10月10日(木)、「地域おこし協力隊」の仕掛人である、地域活性化センター常務理事の椎川忍(しいかわしのぶ)氏と愛媛県伊予市地域おこし協力隊として実際に活動されている富田敏(とみたさとし)氏をお迎えしました。

椎川氏には、「分権時代の新しい地域のすがた～緑の分権改革の実践と地域おこし協力隊への期待～」と題して、富田氏には「しずむ夕日が立ちどまる町 愛媛県双海町より」と題してご講演いただきました。

また、お2人のご講演の後には、本学公共政策学部の小沢修司教授のコーディネートのもと、椎川氏や富田氏と意見交換やフロアとの質疑応答を行いました。



【参加者の声】

- ・ 富田さんの現場の話がとても興味深かった。2年間であれだけのことをされたことが信じられない！(京都府内市町村職員)。
- ・ 椎川さんのお話からは、地域サポート人の役割や制度の概要、富田さんのお話からは具体的事例を知ることが出来て、大変有意義な時間になりました。(京都府外市町村職員)
- ・ 地域おこし協力隊のしくみを理解できた。域学連携の仕組みづくりの参考となった。ありがとうございました。(大学職員)
- ・ 自治体の知恵がどんどん試される時代になっているなーと、椎川さんのお話を聞くと思えてきました。行政も気を引き締めてやらないと、と改めて感じました。富田さんが数字の目標を決めて協力隊業務をされていることに好感が持てました。(京都府職員)
- ・ 今まで色々な地域おこし協力隊の話聞いてきたのですが、あまりメリットというか協力隊と地域住民との温度差を感じていたので、地域おこし協力隊の成功例というか、私たちの求めた理想像のような話でとても勉強になりました。(京都府立大学学生・院生)

第4回セミナーのご案内

11月28日(木) 15:00~17:15



参加をご希望の方は、お電話、E-mail、FAXでお申し込みください。



対象者：自治体職員・議員、研究者、学生ほか広く府民一般
場 所：京都府職員研修・研究支援センター 2F 視聴覚室

「地域の縁がわ でつながる！～くまもと発 まちづくり型福祉の展開～」

講師：新谷良徳(しんたによしのり)氏(熊本県健康福祉政策課 福祉のまちづくり室長)

実践報告者：山下順子(やましたじゅんこ)氏(NPO法人とら太の会 理事長)

コメンテーター：築山崇(つきやま たかし) 副学長(京都府立大学/京都府立大学公共政策学部教授)

住民みんなが気軽に集い、支え合う地域の拠点を作ろう。熊本県は、2004年度に県単独の助成制度「地域の縁がわづくり推進事業」を創設(2006年、全国知事会より優良事例と認定)。「地域の縁がわ」を県内に広めるため、経済的な支援や縁がわの立ち上げ・運営支援などを行ってきました。現在では「農縁づくり」や「食の縁がわ」など、新しい展開を見せており、全国的に注目を集めています。

また、「地域の縁がわ」の1つ「とら太ふれあいホーム」では、一軒の建物の中に作業所や保育所、学童、高齢者や不登校・引きこもりの方が集う居場所を設置するという、全国的にも珍しい取り組みを行っています(2010年度子ども若者育成・子育て支援功労者内閣総理大臣表彰受賞)。

地域での生活や人とのつながりが再度見つめ直されている今、これらの事業がどう始まり現在に至っているのか、「地域の縁がわ」ではどんな化学反応が起きているのか等について、お話を伺います。

※詳細はKPIホームページ等をご覧ください。



写真は左から、
 ・第4回久多の夢を語る会
 ・愛媛県西予市でのヒアリング
 ・第1回国際セミナー

の様子

左京区受託研究

久多地域でワークショップ「久多の夢を語る会」を開催中



KPIでは昨年度から、左京区北部の久多地域の地域課題解決に向けた研究を実施しています。昨年度は主に研究会を実施してきましたが、今年度は実際に地域に入り、住民の方と一緒にワークショップ「久多の夢を語る会」（以下、「語る会」と記す）を中心に進めています。久多地域は高齢化の進展や獣害、公共交通に関する課題を抱えています。これらへどう対応するかについて、住民の皆さんと話すため、これまでに4回の語る会を開催しました。

KPIは語る会を開催することで、これまでに大人数で、世代を超えて話される機会がなかった「これから久多地域をどうしていくか/いきたいか」の話をする場づくりのお手伝いをしています。それぞれが久多の良い所や課題、将来の夢などを語る中で、それぞれに違う価値観を持っていること、久多の価値や存在意義の異なる捉え方があることも見えてきました。語る会をきっかけに、ボランティア乗合タクシーの運行実験が9月30日、10月23日/30日に行われ、乗車してくださった方は楽しんでくださったようです。その他にも、住民の自発的な取り組みとして、猿を追い払う「おっぱらい隊」が結成されるなど、久多の中で少しずつ動きが出てきています。

KPIでは、語る会に参加できない方のために語る会で何が話されているかを伝えるお便りを作成し、毎回全戸配布させていただきながら、より多くの方の参加を呼びかけています。これからも、地域に入りながら、住民の方が動く基盤づくりのお手伝いを進めていきます。

*お便りについては、KPIのfacebookをご覧ください。

報告 国際セミナー

「ドイツにおけるエネルギー・気候変動政策の経験～成功と課題～」を開催



10月16日（水）、ドイツカッセル大学経済経営学部のSven Rudolph博士をお招きし、国際セミナーを開催しました。ドイツの環境政策を推進した際にかかる政策コストと推進しなかった場合のダメージコストの比較や、政策導入時期が早いほどコストが低くなること、また、これらの政策に対する国民の姿勢について、様々なデータを使いながら語っていただきました。Rudolph博士の講演の後には、本学公共政策学部の川勝健志准教授がコメンテーターとして登壇し、ドイツがこのような政策を掲げられる/導入できるのはなぜなのかについて、Sven博士との意見交換の中で参加者の疑問に答えていただきました。

京都府との協働研究

愛媛県庁と愛媛県西予市へのヒアリング調査を実施



「市町村行革支援プログラム」研究会では、8月26日～27日にかけて、平成24年度に「行革甲子園」を開催した愛媛県と、その行革甲子園で「えひめ行革大賞」を受賞した西予市にヒアリングを実施しました。

愛媛県庁では、情報を共有する仕組みづくりのために行革甲子園を開始したこと、評価の際のポイントや、その成果などについてお聞きしました。

また、西予市では、市が行ってきた行政改革やその評価方法、行革甲子園についてお聞きしました。西予市は、行革甲子園で若手職員行革チームによる「未来せいの創造プランプロジェクト」で大賞を受賞しました。全体のルールとしては、市の全事業を対象とすること、5億円削減すること、事業の廃止だけでなく、新しい事業の創設を考えることを目標に掲げ取り組んだとのことでした。このプロジェクトは行革に留まらず職員研修にもなっており、量ではなく質の行革を考える際に大変参考になりました。

京都府との協働研究 公開セミナー



「薬物依存をもつ人とそのご家族の体験から学ぶ ー薬物依存という病気とその回復」

11月15日（金）13：30～16：30

場所：中丹勤労者福祉会館大会議室
 （京都府福知山市昭和新町105）

「薬物乱用防止相談に関する調査研究」の一環として、公開セミナーを開催します。

本学公共政策学部、山野尚美准教授の講演（「薬物依存の回復におけるセルフケアと自助グループ」）の後、京都ダルクスタッフ講演（「薬物依存の回復と京都ダルクの取り組み」）を始め、薬物依存をもつ人やその家族から体験談を語って頂きながら、薬物依存という病気の知識を府民の皆様にお伝えします。

従来の知識に加えて、「薬物依存症」という病気に着目した、健康リスクとしての薬物問題に関する知識を得て、身近に迫る薬物問題を安全に回避し、周りの人々を守る一助にいただければ幸いです。

みなさまのご参加をおまちしております。

*詳細はKPIホームページ等をご覧ください。

KPIリレーコラム

企画会議委員

小沢修司



11月16日（土）は府大の大学祭（流木祭）ですが、そこに作家で演出家の鴻上尚史さんをお呼びして講演会&学生とのトークセッションを開催します。私が責任者の一人を務める三大学（京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学）の教養教育共同化の取組の一環として、新しい時代が求める教養教育の在り方を探ります。題して「不安を楽しめ！」。鴻上さんの著書のタイトルをいただきました^^

実は、鴻上さんと呼んでこうした企画を実現するのは、私の長年の夢(?)でした。第三舞台と出会い、鴻上さんの演劇を観、著作を読みあさって四半世紀が経ちます。私の今があるのも、鴻上さんのおかげです……と勝手に思っています(笑)

鴻上さんが作・演出する舞台は欠かさず観ています。鴻上さんが主宰する虚構の劇団で息子（小沢道成）が役者をするようになったというミラクルも！そんな訳で、11/16が楽しみなのです。



KPIのfacebookにアクセスして情報をチェック！